



環境まちづくり

Vol.29



会長 木内 勝司

前回のSDGs（持続可能な開発目標）についての続きです。持続可能な開発は、持続可能な社会をつくることと同義です。また、2030年に向けたSDGsにおける17の目標は、世界が抱えているリスクと読みかえることもできます。

リスクに対応することができれば、それはビジネスチャンスや新たな市場開拓につながるため、企業にとっても重要な取り組みとなります。これまで、企業は主にCSR活動（社会的責任）を通して、環境や社会に対して貢献してきました。しかし、これから

はCSRの枠を超えて「本業での貢献」として社会課題に取り込むことが求められ、環境市民活動団体等との連携・協働についての考え方にも変化や影響があると考えられます。

自治体では、環境基本計画や総合計画にSDGsを取り込む動きが見られ、中長期的な人口減少や少子高齢化などを背景に、地域活性化に向けて「持続可能性」は重要なキーワードです。どのように取り組めばよいか、その「ものさし」としてSDGsの目標を環境面での地域課題に置き換えて考えてみることも有効だと思えます。

ぶっし里山会 会長 中村 巖

ふるさとの山しごとで心と体をリフレッシュして

私達は、「加治丘陵さとやま計画」の策定を機に、仏子の人を中心とした山林ボランティア団体として発足しました。現在、宮寺・藤沢・新久・鍵山等の会員を中心に、気心が知れて、和気あいあいと楽しく活動しています。

ふるさとの里山に夢はせて



活動場所は、青少年活動センターの北側の一画にあります。活動は毎月「第3日曜日の午前9時から正午」です。当初、この一画の山林は荒れていたため、下草刈りと間伐を行い、チェーンソー、プロアワー等を駆使して林床をきれいに整地しました。林は明るくすっきりとした景観に姿をかえました。

ふるさとの森の恵みに感謝して

ヒノキの間伐材は広場の休憩所に丸椅子やテーブルとして設置し、子供達の昆虫学

習の飼育床も設置しました。また、植生の名札付とコナラの間伐材を使ってシイタケ栽培も実施しました。さらに、カブト虫の配布を毎年7月に青少年活動センターで実施しています。加治丘陵の恵みに感謝しています。

ふるさとの人と山がつながる未来へ

今後は、市民が自然とふれあう場や環境学習の場、さらに子供が自然の中で行うさまざまな活動の場となるよう考えています。なお、昔の仏子山では山仕事をしている人を良く見かけました。その山は常に下草刈りがおこなわれ、自然環境が維持されていました。そのような里山を目指し、活動していきたいと思っています。「ぶっし里山会」で私たちと一緒に活動しませんか。



連絡先：090-9642-4159 (会長)

設立 2010年4月1日

2018年度の事業報告

- 5月 ●総会、講演会【講師：(株)奥井組】
 - 八ツ場ダム見学
- 7月 ●路上喫煙防止キャンペーンに参加
- 9月 ●環境に関する団体との交流会
- 10月 ●第7回いるま環境フェア開催
 - ごみ減量・マイバッグ推進キャンペーンに参加
 - いるま万燈まつり会場のごみ拾いを実施
- 11月 ●環境ウォーキング開催
 - 八ツ場ダム見学
- 3月 ●会報の発行

- ※7月～9月及び12月～2月にエコライフDAY活動を実施
- ※ごみひろい隊の活動は、毎月第2日曜日に豊岡コースと藤沢コースを交替で実施（詳しくは、ホームページの「ごみひろい隊」をご覧ください）

入間市環境まちづくり会議 検索

URL : <http://www.kankyo-iruma.net/>

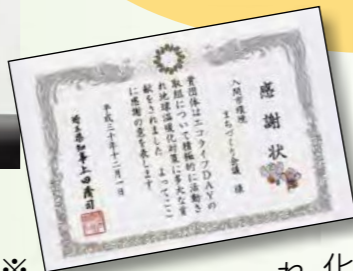
会員数 414 (人・団体)

入間市環境まちづくり会議

事務局 入間市役所環境経済部環境課
TEL 04-2964-1111 (内線 4221、4222)
FAX 04-2965-0232 (代表)



入間市環境まちづくり会議が埼玉県で一位に!



2017年冬のエコライフDAYの参加者数(公共機関を除く事業所・団体)で「入間市環境まちづくり会議」が埼玉県で一位になり、埼玉県知事から「エコライフDAYの取り組みについて積極的に活動され地球温暖化に多大な貢献をされました」と感謝状をいただきました。ご協力頂いた方々ありがとうございました。

※エコライフDAYの取り組みは、チェックシートを使用して、家庭での1日の省エネ・省資源の取り組みをチェックすることで、自分が1日にどのくらい二酸化炭素を減らすことができたか判ります。

(本多進 記)

第7回 いるま環境フェア

9月30日(日)に産業文化センターで、第7回いるま環境フェアが開催されました。

当日は非常に強い勢力で台風24号が関東に接近する中での、不安を抱えたスタートでした。「いるま」から発信！私が取り組む環境のカタチ」をテーマに掲げ、秋開催にして2年目、スタートか



展示コーナー

ら7年目の今回も、市民、団体、事業者、行政が一つになり作り上げている、この「いるま環境フェア」は、それぞれの環境への取り組みを発表する場としてだけではなく、入間市を暮らしやすい街に育てていけるヒントが詰まったフェアに育っていると実感できるものでした。

オープニングセレモニーでは環境川柳の授賞式が行われました。3つの小学校からの参加もあり、多くの作品が集まりました。その後、東野高校吹奏楽の素晴らしい演奏につづき、今回は「笑いは環境にもやさし



展示コーナー

い」と題して、桂文ぶんさんの落語、午後にはフードパノクいるま講演会がありました。

パネル展示では多くの事業者の工夫を凝らした展示やグッズ配布など、来場した市民の興味をひきました。市民団体の日ごろの活動は、なかなか目に見えないものですが、展示やお話を聞くことのできる良い場になったと思います。

その他「環境にやさしいカフェ」「おもちゃ病院」「ストラップ作り」「木組みジャングルジム」入間の採れたて野菜」「エコ模擬店」「スタンプラ

リー」などで会場は賑やかでした。

心配された台風は奇跡的にクロージングまで待つてくれたようで、無事にいるま環境フェアの閉会を迎えたことに、実行委員会メンバーとして感謝します。

今後多く多くの市民が足を運んでくれるようなフェアにしていきたいと考えています。皆さんのご協力をよろしくお願い致します。

(二ノ宮小百合 記)



体験コーナー

運営委員の募集

環境まちづくり会議の運営委員をやってみませんか。期間は2019年5月から2年間です。年に4回程度開催される運営委員会で、会の運営に関することらを決めていきます。

2018年度は4回の運営委員会で、環境フェア、環境ウォーキング等について討議しました。希望される方は、4月15日までに事務局(市役所 環境課)までご連絡ください。

環境ウォーキング

秋晴れに恵まれた11月17日の土曜日、加治丘陵と入間川の2コースにスタッフを含めて約50名が参加して開催されました。

加治丘陵コースは、ノルディックRUMAの皆さんの全面的な協力を得て、スキーのストックのようなポールを用いたノルディックウォークを体験しながら加治丘陵を中心に約3時間の行程を歩きました。八津池公園、牛沢のかたくり自生地とほたるの里、高倉の茶畑



など入間の景観を満喫しました。

入間川コースでは、河川の専門家である木内会長、市内を流れる入間川と霞川について学びながらウォーキングを楽しみました。

ゴールのまちや公園では、地元で生産された里芋やネギ等をふんだんに使った芋煮に舌鼓。挨拶にみえた田中市長も交えて環境クイズや万歩計クイズでウォーキングを振り返りました。

入間に越してきて半年足らずという7代のご夫婦は、「入間の街と自然

を知る事が出来ることも有意義でした」と疲れも見せず感想を語ってくれました。

(新井格 記)

ハツ場ダム見学会



ハツ場ダムは首都圏で唯一の建設中のダムです。国土交通省が群馬県長野原町において洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道及び発電を目的とした多目的ダムです。2014年に着工し、2020年3月に完成予定です。環境まちづくり会議では、5月と11月の2回見学会を行いました。「広報いるま」で募集したところ申込みは定員の約3倍でした。

見学会は工事中のダム全体を上から見渡せる「ハツ場見晴らし台」から始まりました。ダムの高さは残り10m程度でほとんど完成に近い状態で、重機がとて小さく見えて、スケールの大きさに感動しました。

午後は資料館等でダム建設の概要をビデオ等で説明を受けました。その後、ダム左岸を見るため上流側に移動し、工事中のダムを見学しました。働く人が本場に小さく、コンクリートを運搬するバケットが空中に浮かんでいて、遥か遠くの運転席で現場監督者の指示に従って操作しているのも見ることができました。

次に、ダム下部を見学するためにダムの下流側まで移動。見学場所近くまでは、徒歩で旧吾妻線の線路跡を移動しました。下流側では発電所が建設中でした。紅葉の名所である「吾妻渓谷」の水没を避けるため、ダムは当初計画した場所から600m程上流に建設されることになりました。



参加者の多くは、ダム工事のスケールの大きさにびっくりしていました。道の駅の掲示板に「沢の水を引いた簡易水道を大切に使う平穩に暮らす山里が水を大量に使う快適な生活を享受している都会のために、なぜ一方的に犠牲を強いられるのか」と書かれた村人の言葉が心に残りました。我々都会の人間は水を大切にしなければと思いました。

(本多進 記)